

創立70周年を迎えて

森林研究所は、昭和27年に岡山県林業試験場として設置されてから、今年度70周年を迎えました。これもひとえに関係各位のご支援・ご協力の賜と心から感謝しております。

当初は苗木生産と育苗関係の調査研究が主体でしたが、昭和30年度からは適地適木調査や精英樹の選抜が開始され、昭和40年代には特用林産物に関する研究、昭和50年代からは抵抗性マツ採種園の造成や育林技術に関する研究が行われるようになりました。昭和60年代には森林・林業に対する要請は森林の有する多面的機能の高度発揮へと多様化し、複層林施業や広葉樹林造成に及びました。

平成に入り県民に開かれた研究機関として、研修棟「森の館」の建築や郷土樹木園の造成等を行うとともに、平成22年には木材加工技術センターと統合して名称も「森林研究所」となり、森林・林業・木材産業の各分野を横断的に連携した研究を行うようになりました。

平成26年からは花粉の少ない森林への転換に向けて、少花粉スギ・ヒノキ採種園を造成し種子生産を始め、少花粉種子の安定生産に向けた試験研究等を行っています。また、林業の担い手育成を行う拠点施設として「林業技術研修棟」を整備し、令和3年4月から供用を開始しました。

このたび70年目という節目を迎え、今後の発展の礎とするため、記念誌を作成することとしました。これまで10年ごとに刊行していることから、過去10年間の研究成果等を中心に紹介していますので、当研究所業務について、ご理解いただく一助となれば幸いに存じます。

今後とも、本県の林業・木材産業の発展と森林が有する多面的機能の持続的発揮に資するため、地域の課題・ニーズを的確に把握し、長期的な展望に立った試験研究等に積極的に取り組んでまいりますので、ご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

令和5年2月

岡山県農林水産総合センター

森林研究所長 小 椋 秀 司